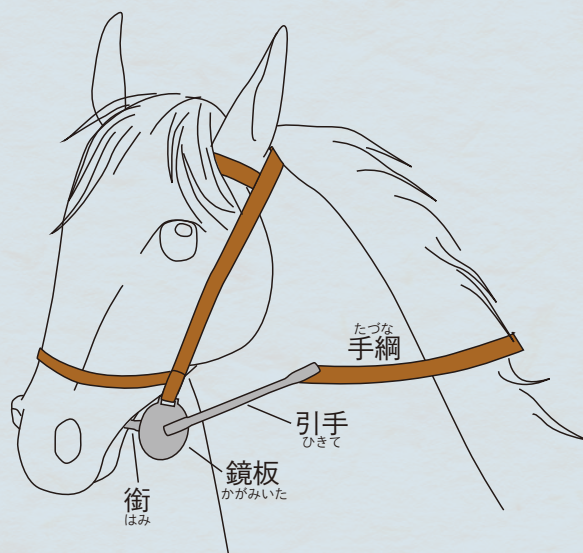


えんけいかがみいたつきくつわ 円形鏡板付轡

轡とは…

轡とは、手綱などをつけて馬を操るために用いる道具で、口にかませる「銜」と、その両脇に取り付けた「鏡板」、そして手綱をつける「引手」からなります。



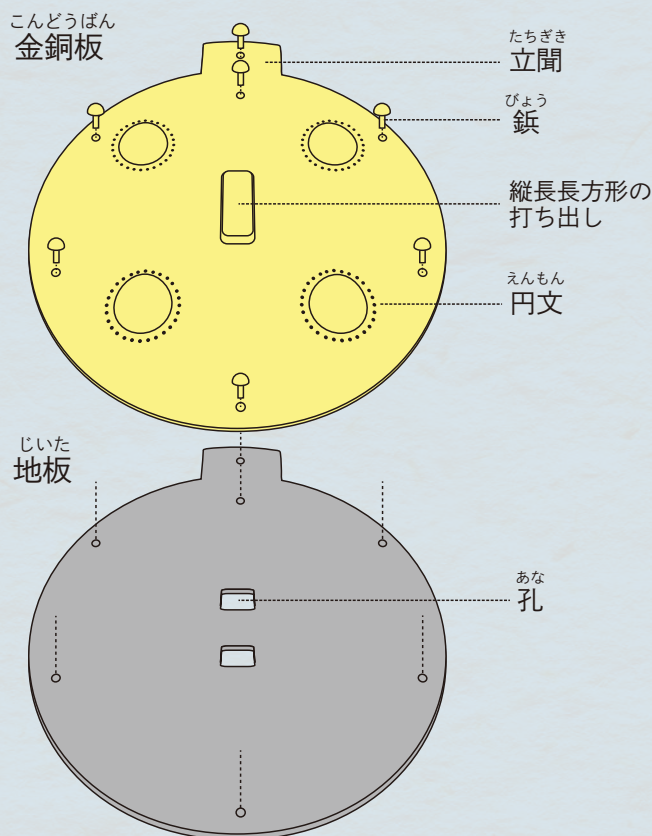
轡の装着状況と各部の名称

船原古墳の円形鏡板付轡の基本情報

轡は鏡板と銜、引手、そしてこれらを繋ぐ遊環からなっています。

鏡板は、地板と金銅板の二層からなり、鉄の地板の上に金銅板を重ねて周囲を鉚で留めています。地板と金銅板はどちらも立聞（上の四角く出っ張った部分）までを一枚で作っています。

金銅板には四方四か所の円文の打ち出しと、中央の縦長長方形の打ち出しが施されています。一方、地板には中央に孔があげられています。地板の孔は遊環を通すためのもので、金銅板の長方形の打ち出しは、遊環が外から見えないようにするための工夫でしょう。

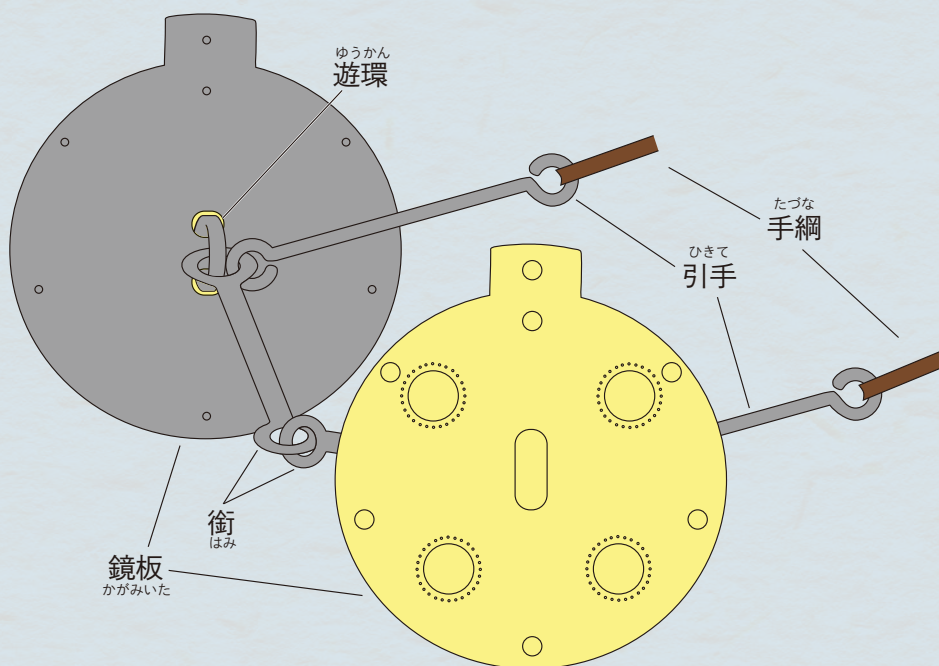


鏡板の層状構造の図解

遊環は棒状の金属を輪にしたもので、鏡板の孔に通して固定されていたと考えられます。

銜は両端を輪とした鉄の棒2本を連結したもので、その端は遊環へくぐらせて繋いでいます。

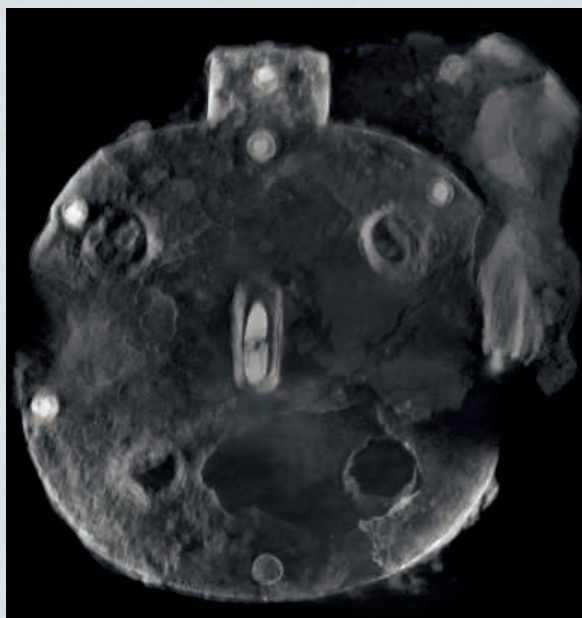
引手も鉄棒の両端を輪にしており、一方は銜の端の輪に連結し、もう一方は手綱を結びつけます。



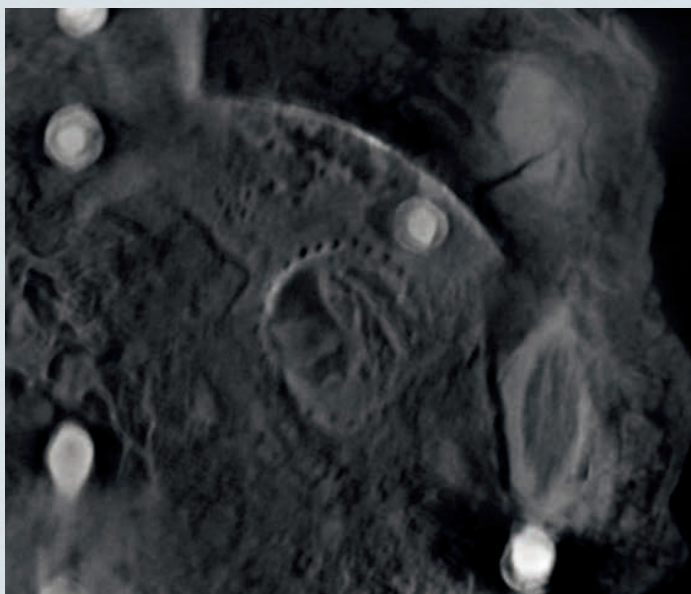
銜と引手の連結方法の図解

円形鏡板付轡の最大の特徴

円形鏡板付轡の最大の特徴はその文様です。金銅板の四方を打ち出してドーム状とした円文は、それ自体稀な文様ですが、その上、この円文の周りには1mm以下のごく緻密な点描が30個前後も穿たれているのです。このような技法で円文を表現した鏡板は日本で初めて確認されたもので、この轡がいかに貴重なものであるかがうかがえます。



鏡板のCT画像



円文の拡大CT画像
(円文の周りに点描が施されている)

古賀市立歴史資料館

〒811-3103 福岡県古賀市中央二丁目13-1
TEL 092-940-2683 FAX 092-944-6215

船原古墳最新情報のページのURL <https://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/bunka/bunkazai/funabaru/>

平成31年3月発行